

「輸液ポンプの流量設定時の注意について」

(事例1.) 化学療法中の患者に輸液ポンプを使用して抗癌剤を流量125 ml/h 予定量250 ml (2時間)で投与する指示であったが、30分後に点滴が終了した。

- ★「予定量」と「流量」の設定を間違えて早く終了した事例です。
1つのディスプレイで「流量」と「予定量」をボタンで切り替えるタイプは逆に誤入力されやすいです。内容を必ず再確認しましょう。

(事例2.) 生理食塩液 250ml に界面活性剤を含有するシクロスポリン注射液 250mg を混合し、流量10ml/hで投与開始したが、終了予定時刻になっても薬液が残っていた

- ★薬剤によっては、界面活性剤などの添加物の影響により1滴の大きさが異なるため、滴下制御式輸液ポンプを使用する場合には流量の調整(補正)を行うことが必要となることがあります。

事例1については、自施設のポンプが誤入力されやすいものでないかの確認を行ってみませんか？
事例2については、そのような薬剤をピックアップして注意していきましょう。

医薬品医療機器情報提供ホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp>)へアクセスして下さい。

